

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第4864668号
(P4864668)

(45) 発行日 平成24年2月1日 (2012. 2. 1)

(24) 登録日 平成23年11月18日 (2011. 11. 18)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 5 D 47/12 (2006. 01)

B 6 5 D 41/04 (2006. 01)

B 6 5 D 47/36 (2006. 01)

B 6 5 D 47/12

B 6 5 D 41/04 D

B 6 5 D 47/36 N

請求項の数 2 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2006-324812 (P2006-324812)	(73) 特許権者	000006909
(22) 出願日	平成18年11月30日 (2006. 11. 30)		株式会社吉野工業所
(65) 公開番号	特開2008-137689 (P2008-137689A)		東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
(43) 公開日	平成20年6月19日 (2008. 6. 19)	(74) 代理人	100064908
審査請求日	平成21年6月2日 (2009. 6. 2)		弁理士 志賀 正武
		(74) 代理人	100094400
			弁理士 鈴木 三義
		(74) 代理人	100106909
			弁理士 棚井 澄雄
		(72) 発明者	橋本 和紀
			東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
			社吉野工業所内
		(72) 発明者	飯塚 茂雄
			東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
			社吉野工業所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 異種材組立容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

有底状の容器本体と、この容器本体の口部に着脱可能に取り付けられた注出口を有する注出栓と、前記注出栓の外周面に螺着されるキャップと、前記容器本体とは異種の材質からなり、前記容器本体の肩部を覆う肩カバー部材と、を備え、

この肩カバー部材は前記注出栓に固定され、

前記注出栓の周壁部には、径方向外方に付勢されてこの周壁部の外周面に対して突出可能に連結された回り止め片が設けられ、

前記キャップの開放端面、及び、回り止め片において前記容器本体の中心軸線に沿った方向における前記口部側の端面の少なくとも一方が、径方向外方に向かうにしたがい漸次前記容器本体の口部側から底部側に向けて傾斜するテーパ面をなし、

10

取り外されたキャップを前記注出栓に螺着する際には、前記キャップの開放端が前記容器本体の口部側から底部側に移動しながら前記回り止め片を径方向内方に押し込んで前記口部の外周面に突設された係止部に係止し、

前記回り止め片において前記キャップの螺脱方向側の端部が、この回り止め片を径方向外方に付勢する弾性ヒンジ部を介して前記注出栓の周壁部に連結されていることを特徴とする異種材組立容器。

【請求項 2】

前記回り止め片における前記口部側の端面が前記テーパ面をなし、

前記テーパ面における前記周壁部の周方向の長さは、前記径方向外方に向かうにしたが

20

い漸次小さくなるように設定されることを特徴とする請求項 1 に記載の異種材組立容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、異種材組立容器に関する。

【背景技術】

【0002】

この種の異種材組立容器として、例えば下記特許文献 1 に示すような、口部を有する容器本体と、前記口部に装着された蓋体と、容器本体とは異なる種類の材質の部材からなり

10

容器本体の肩部分を覆う肩カバー部材とを備えた構成が知られている。
さらに、このような構成の異種材組立容器として、容器本体及び肩カバーの外周面が相互に連なるように形成されると共に、容器本体及び肩カバー部材の外周面に跨るように印刷等の装飾を施して容器の意匠性向上を図っているものがある。

【特許文献 1】特開平 10 - 16976 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、例えば肩カバー部材が容器本体に対して回転可能に取り付けられると共にこの肩カバー部材が蓋体に密着するような構成であると、異種材組立容器の開栓若しくは閉栓時に肩カバー部材が蓋体と供回りしてしまう場合があり、容器の意匠性が損なわれる虞がある。そして、これを防止する方法としては、肩カバー部材を容器本体に堅固に取り付けることも考えられているが、近年では資源を再利用する気運が高まっているため、肩カバー部材及び容器本体を分別して廃棄することが困難となる。

20

【0004】

本発明は、このような事情を考慮してなされたもので、肩カバー部材及び容器本体を容易に分別廃棄可能としながら、肩カバー部材及び容器本体の位置ずれに基づく意匠性の低下を防止できる異種材組立容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

30

上記課題を解決して、このような目的を達成するために、本発明の異種材組立容器は、有底状の容器本体と、この容器本体の口部に着脱可能に取り付けられた注出口を有する注出栓と、前記注出栓の外周面に螺着されるキャップと、前記容器本体とは異種の材質からなり、前記容器本体の肩部を覆う肩カバー部材と、を備え、この肩カバー部材は前記注出栓に固定され、前記注出栓の周壁部には、径方向外方に付勢されてこの周壁部の外周面に対して突出可能に連結された回り止め片が設けられ、前記キャップの開放端面、及び、回り止め片において前記容器本体の中心軸線に沿った方向における前記口部側の端面の少なくとも一方が、径方向外方に向かうにしたがい漸次前記容器本体の口部側から底部側に向けて傾斜するテーパ面をなし、取り外されたキャップを前記注出栓に螺着する際には、前記キャップの開放端が前記容器本体の口部側から底部側に移動しながら前記回り止め片を径方向内方に押し込んで前記口部の外周面に突設された係止部に係止し、前記回り止め片において前記キャップの螺脱方向側の端部が、この回り止め片を径方向外方に付勢する弾性ヒンジ部を介して前記注出栓の周壁部に連結されていることを特徴とする。

40

【0006】

この発明において、キャップを注出栓に螺着する際には、回り止め片がキャップの開放端によって径方向内方に押し込まれて係止部に係止されるため、この係止によって注出栓がキャップの螺着方向に移動することを規制できる。これにより、キャップを注出栓に螺着する際に注出栓にキャップと供回りする力が作用しても、注出栓がキャップと共に前記螺着方向に回転することを容易に防止できる。

50

また、回り止め片は径方向外方に付勢されているため、キャップを注出栓から取り外した状態において、回り止め片が口部の外周面から離間して係止部に係止されなくなる。これにより、キャップを注出栓から取り外しておけば、注出栓を容器本体から容易に取り外すことができる。そして、肩カバー部材はこの注出栓に固定されているため、肩カバー部材も注出栓と共に容器本体から容易に分離させることができる。

【 0 0 0 7 】

したがって、容器本体及び肩カバー部材の外周面に跨って印刷等の装飾が施されたとしても、キャップの螺着時に容器本体及び肩カバー部材が周方向に位置ずれすることを防止して、異種材組立容器の意匠性低下を防止できる。また、肩カバー部材も容器本体から容易に分離させることができるため、肩カバー部材及び容器本体を容易に分別廃棄することができる。

10

そして、例えば回り止め片の端面が前記テーパ面をなす場合には、前述のようにキャップの開放端が容器本体の口部側から底部側に移動しながらテーパ面を押さえつけ、このテーパ面の押さえつけに伴って、回り止め片が径方向内方に押し込まれることになる。なお、キャップの開放端面が前記テーパ面をなす場合でも、同様にして回り止め片が径方向内方に押し込まれる。すなわち、回り止め片やキャップにテーパ面を形成しておくことで、前述のようにキャップの開放端が容器本体の口部側から底部側に向かう移動を、回り止め片を径方向内方側に移動させる力に効率よく変換することができる。

さらに、上記発明では、キャップの開放端で回り止め片を押さえつける際に、この回り止め片をキャップの開放端に引っ掛けることなく滑らかに径方向内方側に押し込むことができる。

20

また、キャップを注出栓に螺着する際には、回り止め片においてキャップの螺着方向側の端部が係止部に当接することになるため、回り止め片が弾性ヒンジ部と係止部とで挟み込まれる状態となる。すなわち、回り止め片が係止部から受ける荷重を弾性ヒンジ部全体で受けることができるため、この荷重に対する弾性ヒンジ部の耐久性を向上させることができる。

【 0 0 0 8 】

また、前記回り止め片における前記口部側の端面が前記テーパ面をなし、前記テーパ面における前記周壁部の周方向の長さは、前記径方向外方に向かうにしたがい漸次小さくなるように設定されていてもよい。

30

【発明の効果】

【 0 0 0 9 】

この発明に係る異種材組立容器によれば、肩カバー部材及び容器本体を容易に分別廃棄可能としながら、肩カバー部材及び容器本体の位置ずれに基づく意匠性の低下を防止することができる。

また、回り止め片に形成されたテーパ面により、キャップの開放端が容器本体の口部側から底部側に向かう移動を、回り止め片を径方向内方側に移動させる力に効率よく変換することができる。

さらに、キャップの開放端で回り止め片を押さえつける際に、この回り止め片をキャップの開放端に引っ掛けることなく滑らかに径方向内方側に押し込むこともできる。

40

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 0 】

以下、図面を参照し、この発明の実施の形態について説明する。図 1 ~ 5 に示されるように、この実施形態に係る異種材組立容器 1 は、口部 3 a を有する有底状の容器本体 3 と、口部 3 a に着脱可能に取り付けられた注出口 5 a を有する注出栓 5 と、注出栓 5 の外周面に螺着されるキャップ 7 と、容器本体 3 の肩部 3 b を覆う肩カバー部材 9 と、を備えている。ここで、注出栓 5、キャップ 7 及び肩カバー部材 9 は、容器本体 3 とは異なる材質によって形成されており、この実施形態においては、容器本体 3 が例えばガラスで形成され、注出栓 5、キャップ 7 及び肩カバー部材 9 が例えば合成樹脂で形成されている。

50

【 0 0 1 1 】

注出栓 5 は、口部 3 a の開口端に当接して配された注出天板部 1 1 と、注出天板部 1 1 に立設されて注出口 5 a をなす注出筒部 1 3 と、注出天板部 1 1 の内側下面に垂設されて口部 3 a の内周面に嵌合する第 1 筒部 1 5 と、注出天板部 1 1 の外縁下面に垂設されて口部 3 a の外周面側に配される第 2 筒部（周壁部）1 7 とを備えている。

注出天板部 1 1 において、注出筒部 1 3 及び第 1 筒部 1 5 の内側には容器本体 3 の中心軸線 O を中心とした略円環状のスコア 1 1 a が形成されており、このスコア 1 1 a の内側が注出口 5 a と容器本体 3 の内部とを遮断する栓部材 1 1 b をなしている。これにより、スコア 1 1 a の少なくとも一部を破断して栓部材 1 1 b を容器本体 3 の内部側に押し込むことで注出口 5 a が容器本体 3 の内部に連通することになる。

10

【 0 0 1 2 】

第 2 筒部 1 7 は、注出天板部 1 1 の外縁下面から容器本体 3 の肩部 3 b に当接する位置まで下方に延在しており、その下端には径方向外方に突出する円環板部 1 9 が形成され、さらにこの円環板部 1 9 の外周縁には上方に突出する外周筒部 2 1 が形成されている。これによって、第 2 筒部 1 7 と外周筒部 2 1 との間には容器本体 3 の口部 3 a 側に開口する円環状の隙間が形成されることになる。

第 2 筒部 1 7 の上端側の内周面には、口部 3 a の外周面に形成された第 1 雄ねじ部 3 c と螺合する第 1 雌ねじ部 1 7 a が形成されている。また、第 2 筒部 1 7 の上端側の外周面には、後述するキャップ 7 を螺着させるための第 2 雄ねじ部 1 7 b が形成されている。

なお、この実施形態において、注出栓 5 は、これを左方向（A 方向）に回転させることで容器本体 3 に螺着され、右方向（B 方向）に回転させることで容器本体 3 から螺脱されるようになっている。

20

【 0 0 1 3 】

また、第 2 筒部 1 7 には、径方向外方側に付勢されて第 2 筒部 1 7 の外周面に対して突出可能に連結されたブロック状の回り止め片 2 3 が設けられている。すなわち、回り止め片 2 3 は、第 2 筒部 1 7 にその径方向に貫通して形成された貫通孔 1 7 c 内に配されるようになっている。そして、この回り止め片 2 3 において、後述するキャップ 7 の螺脱方向（B 方向）側の端部が回り止め片 2 3 を径方向外方に付勢する弾性ヒンジ部 2 5 を介して貫通孔 1 7 c の周縁に連結されている。なお、この実施形態において、回り止め片 2 3 及び弾性ヒンジ部 2 5 は第 2 筒部 1 7 と一体に形成されている。

30

【 0 0 1 4 】

また、この回り止め片 2 3 において、前記中心軸線 O に沿った方向における容器本体 3 の口部 3 a 側の端面（上端面）は径方向外方に向かうにしたがい漸次容器本体 3 の口部 3 a 側から底部側に向けて傾斜するテーパ面 2 3 a をなしており、回り止め片 2 3 に外力が付加されていない状態では、このテーパ面 2 3 a が第 2 筒部 1 7 の外周面から突出することになる。また、回り止め片 2 3 に外力を付加してテーパ面 2 3 a 全体が貫通孔 1 7 c 内に収納された状態においては、回り止め片 2 3 の一部が第 2 筒部 1 7 の内周面から突出するようになっている。

【 0 0 1 5 】

ここで、容器本体 3 の口部 3 a の外周面には、第 2 筒部 1 7 の内周面から突出した回り止め片 2 3 を係止するための係止部 2 7 , 2 9 が一対突設されている。そして、一方の係止部 2 7 は、この回り止め片 2 3 に対して注出栓 5 の螺着方向（A 方向）に配置され、他方の係止部 2 9 は、回り止め片 2 3 に対して注出栓 5 の螺脱方向（B 方向）に配置されている。したがって、回り止め片 2 3 が第 2 筒部 1 7 の内周面から突出した状態においては、一対の係止部 2 7 , 2 9 に係止され、この係止によって注出栓 5 の A 方向及び B 方向への移動が規制されることになる。

40

これら回り止め片 2 3 及びこれを係止する係止部 2 7 , 2 9 は、第 2 筒部 1 7 の周方向に複数設けられている。

【 0 0 1 6 】

キャップ 7 は、注出天板部 1 1 に対向して配されるキャップ天板部 3 1 と、このキャッ

50

プ天板部 3 1 の外縁に垂設されて注出栓 5 の第 2 雄ねじ部 1 7 b に螺合する第 2 雌ねじ部 3 3 a を内周面に形成した螺合筒部 3 3 とを備えている。なお、この実施形態において、キャップ 7 は、これを左方向（A 方向）に回転させることで注出栓 5 に螺着され、右方向（B 方向）に回転させることで注出栓 5 から螺脱されるようになっている。

キャップ天板部 3 1 の下面にはインナーリング 3 5 が立設されており、キャップ 7 を螺着方向（A 方向）に回転させることでこのインナーリング 3 5 が注出筒部 1 3 の内周面に嵌合するようになっている。

【 0 0 1 7 】

また、キャップ天板部 3 1 の下面において、インナーリング 3 5 の内側には、前記中心軸線 O 上に位置した開栓突起 3 7 が垂設されており、キャップ 7 を螺着方向（A 方向）に回転させることで開栓突起 3 7 がスコア 1 1 a の少なくとも一部を破断して栓部材 1 1 b を容器本体 3 の内部に押し込むようになっている。

10

さらに、キャップ天板部 3 1 の下面において、インナーリング 3 5 の外側には、同一円周上に配された複数の係合突起 3 9 が垂設されており、キャップ 7 を螺着方向（A 方向）に回転させることで注出筒部 1 3 の外周面に形成された係合凸部 1 3 a に係合するようになっている。すなわち、これら係合突起 3 9 及び係合凸部 1 3 a は、螺着されたキャップ 7 が不意に注出栓 5 から外れてしまうことを防止する役割を果たすようになっている。

【 0 0 1 8 】

また、キャップ 7 において、第 2 雌ねじ部 3 3 a の形成位置よりも下方側に位置してキャップ 7 の開放端をなす螺合筒部 3 3 の下端部は、その内周面が回り止め片 2 3 を設けた注出栓 5 の第 2 筒部 1 7 の外周面に対して摺動するように、若しくは、この外周面との間に微小な隙間を介して移動するように形成されている。

20

さらに、この螺合筒部 3 3 の下端部は、キャップ 7 を注出栓 5 に対して完全に螺着してキャップ 7 の螺着方向への回転が不能となる状態（図 3 参照）において、貫通孔 1 7 c を閉塞する位置に配されるようになっている。

【 0 0 1 9 】

肩カパー部材 9 は、容器本体 3 の外周面に連なるように形成された外周面を有するカパー周壁部 4 1 と、このカパー周壁部 4 1 の上端から径方向内方に突出するカパー肩部 4 3 と、カパー肩部 4 3 の先端から下方に突出して前記カパー周壁部 4 1 に対向配置されたカパー鉤部 4 5 とを備えている。

30

カパー周壁部 4 1 は、前述した注出栓 5 の外周筒部 2 1 の外周面側に配置されるようになり、その内周面には、外周筒部 2 1 の外周面から突出する嵌合凸部 2 1 a に嵌合する嵌合突起 4 1 a が形成されている。また、カパー鉤部 4 5 は、外周筒部 2 1 に対向する第 2 筒部 1 7 の外周面側に配置されるようになり、その先端部が第 2 筒部 1 7 の下端部に形成された嵌合孔 1 7 d に嵌合するようになっている。すなわち、カパー鉤部 4 5 が第 2 筒部 1 7 と外周筒部 2 1 との隙間に入り込むように肩カパー部材 9 を注出栓 5 の上方側から取り付けることで、肩カパー部材 9 が注出栓 5 に嵌着（固定）されることになる。

【 0 0 2 0 】

また、この異種材組立容器 1 では、未開封の状態でキャップ 7 及び肩カパー部材 9 が一体に形成されている。すなわち、図 1 に示すように、螺合筒部 3 3 の下端部と肩カパー部材 9 の上端部との間にはバージンリング 5 1 が設けられており、バージンリング 5 1 と螺合筒部 3 3 の下端部や肩カパー部材 9 の上端部との間に形成されたミシン目等の易破断部 5 3 , 5 5 によって、キャップ 7 及び肩カパー部材 9 が一体に形成されることになる。

40

このバージンリング 5 1 は、その周方向の一部で分断されると共に周方向の一端に径方向外方に突出する把持部 5 1 a を形成して構成されている。したがって、手指で把持部 5 1 a を掴んだ状態でバージンリング 5 1 の周方向に移動させることにより、易破断部 5 3 , 5 5 が破断されて、バージンリング 5 1 が取り外されると共にキャップ 7 及び肩カパー部材 9 が相互に分離されることになる。

【 0 0 2 1 】

50

また、バージンリング 5 1 は、回り止め片 2 3 の径方向外方側に配置されるようになっており、その内径寸法が螺合筒部 3 3 の下端部と略等しくなるように形成されている。このため、これらキャップ 7、肩カバー部材 9 及びバージンリング 5 1 が注出栓 5 を介して容器本体 3 に取り付けられた状態においては、回り止め片 2 3 がバージンリング 5 1 によって貫通孔 1 7 c の径方向内方側に押し込まれて容器本体 3 の口部 3 a に形成された係止部 2 7, 2 9 に係止されることになる。

【 0 0 2 2 】

以上のように構成された異種材組立容器 1 では、図 1 に示されるように、未開封の状態において回り止め片 2 3 が容器本体 3 の係止部 2 7, 2 9 に係止されているため、キャップ 7 を螺着方向あるいは螺脱方向に回転させることで注出栓 5 にキャップ 7 と供回りする力が作用しても、注出栓 5 がキャップ 7 と共にキャップ 7 の螺着方向あるいは螺脱方向に回転することを防止できる。

そして、この未開封状態の異種材組立容器 1 を開封する場合には、はじめに、バージンリング 5 1 をキャップ 7 及び肩カバー部材 9 から取り外し、次いで、キャップ 7 を螺着方向に回転させて、図 3 に示されるように、注出栓 5 に対して完全に螺着させる。この際には、キャップ 7 に形成された開栓突起 3 7 が容器本体 3 の口部 3 a 側から底部側に向けて移動し、栓部材 1 1 b を容器本体 3 の内部側に押し込むため、スコア 1 1 a が破断されて栓部材 1 1 b が容器本体 3 の内部に入り込む。最後に、図 2 に示される状態を経て、キャップ 7 を螺脱方向に回転させて容器本体 3 及び注出栓 5 から取り外すことにより、容器本体 3 の内部が注出口 5 a に連通すると共に外方に開口することになる。

【 0 0 2 3 】

また、取り外されたキャップ 7 を注出栓 5 に螺着して、図 3 に示されるように、容器本体 3 の開口を閉塞する場合には、キャップ 7 を螺着方向に回転させてキャップ 7 の開放端を容器本体 3 の口部 3 a 側から底部側に向けて移動させる。この際、キャップ 7 の開放端は回り止め片 2 3 のテーパ面 2 3 a を押さえつけ、このテーパ面 2 3 a の押さえつけに伴って、回り止め片 2 3 が径方向内方に押し込まれて口部 3 a の外周面に突設された一方の係止部 2 7 に係止されることになる。

このため、キャップ 7 を注出栓 5 に螺着する際には、注出栓 5 がキャップ 7 の螺着方向に移動することが規制されることになる。すなわち、このキャップ 7 の螺着に際して注出栓 5 にキャップ 7 と供回りする力が作用しても、注出栓 5 がキャップ 7 と共に螺着方向に回転することを容易に防止できる。

【 0 0 2 4 】

なお、図 2 に示されるように、キャップ 7 を注出栓 5 から螺脱する際には、キャップ 7 の開放端による回り止め片 2 3 の押さえ込みが解除されるため、弾性ヒンジ部 2 5 の付勢力によって回り止め片 2 3 が口部 3 a の外周面から離間して係止部 2 7, 2 9 に係止されなくなる。

そして、このキャップ 7 の螺脱に際しては、注出栓 5 にキャップ 7 と供回りする力が作用して注出栓 5 をキャップ 7 の螺脱方向に移動させようとするが、キャップ 7 の開放端が回り止め片 2 3 を径方向内方に押し込む位置に配されている限り、回り止め片 2 3 が他方の係止部 2 9 に係止されるため、結果として、注出栓 5 がキャップ 7 の螺脱方向に移動することはない。

【 0 0 2 5 】

また、キャップ 7 を注出栓 5 から螺脱した状態においては、上述したように、回り止め片 2 3 が係止部 2 7, 2 9 に係止されなくなるため、キャップ 7 を注出栓 5 から取り外しておけば、注出栓 5 を螺脱方向に回転させることで容器本体 3 から容易に取り外すことができる。そして、肩カバー部材 9 はこの注出栓 5 に嵌着されているため、肩カバー部材 9 も注出栓 5 と共に容器本体 3 から容易に分離させることができる。

【 0 0 2 6 】

以上説明したように本実施形態に係る異種材組立容器 1 によれば、容器本体 3 及び肩カバー部材 9 の外周面に跨って印刷等の装飾が施されたとしても、キャップ 7 の螺着時に容

10

20

30

40

50

器本体 3 及び肩カバー部材 9 が周方向に位置ずれすることを防止して、異種材組立容器 1 の意匠性低下を防止できる。また、肩カバー部材 9 も容器本体 3 から容易に分離させることができるため、肩カバー部材 9 及び容器本体 3 を容易に分別廃棄することができる。

【 0 0 2 7 】

また、回り止め片 2 3 にテーパ面 2 3 a を形成しておくことで、キャップ 7 の開放端が容器本体 3 の口部 3 a 側から底部側に向かう移動を、回り止め片 2 3 を径方向内方側に移動させる力に効率よく変換することができる。

さらに、回り止め片 2 3 において、キャップ 7 の螺脱方向側の端部を貫通孔 1 7 c の周縁をなす注出栓 5 の周壁部に連結しておくことで、キャップ 7 の開放端で回り止め片 2 3 を押さえつける際に、この回り止め片 2 3 をキャップ 7 の開放端に引っ掛けることなく滑らかに径方向内方側に押し込むことができる。

10

また、キャップ 7 を注出栓 5 に螺着する際には、回り止め片 2 3 においてキャップ 7 の螺着方向側の端部が一方の係止部 2 7 に当接することになるため、回り止め片 2 3 が弾性ヒンジ部 2 5 と一方の係止部 2 7 とで挟み込まれる状態となる。すなわち、回り止め片 2 3 が一方の係止部 2 7 から受ける荷重を弾性ヒンジ部 2 5 全体で受けることができるため、この荷重に対する弾性ヒンジ部 2 5 の耐久性を向上させることができる。

【 0 0 2 8 】

以上、本発明の実施形態である異種材組立容器について説明したが、本発明の技術的範囲はこれに限定されることはなく、本発明の技術的思想を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

20

例えば、注出天板部 1 1 に栓部材 1 1 b を設けると共にキャップ 7 に栓部材 1 1 b を容器本体 3 内部に押し込む開栓突起 3 7 を形成するとしたが、これらは特に設けなくても構わない。そして、この場合には、例えばバージンリング 5 1 を設けずに未開封の状態において上記実施形態と同様の易破断部を介してキャップ 7 及び肩カバー部材 9 が一体に成形されとしてもよい。

また、例えば肩カバー部材 9 は、キャップ 7 と一体に成形せずに、注出栓 5 と一体に成形（固定）されとしても構わない。

【 0 0 2 9 】

さらに、一方の係止部 2 7 において回り止め片 2 3 が当接する係止面は、図 4 に示すように口部 3 a の外周面に対して垂直に形成されることに限らず、例えば、径方向外方に向かうにしたがい漸次キャップ 7 の螺着方向（A 方向）に傾斜する傾斜面に形成されとしても構わない。この場合、キャップ 7 を注出栓 5 に螺着した際には、上述したように、回り止め片 2 3 が弾性ヒンジ部 2 5 と一方の係止部 2 7 とで挟み込まれた状態となるが、この状態からキャップ 7 を取り外してキャップ 7 の開放端による回り止め片 2 3 の押さえ込みが解除された際には、前述の挟み込みが解除されなくても、弾性ヒンジ部 2 5 の付勢力に基づいて、回り止め片 2 3 が弾性ヒンジ部 2 5 を軸として第 2 筒部 1 7 の外側に向けて容易に回転することができる。

30

【 0 0 3 0 】

また、回り止め片 2 3 の端面がテーパ面 2 3 a をなすとしたが、例えば回り止め片 2 3 の端面を押さえつけるキャップ 7 の開放端面が同様のテーパ面をなすとしてもよいし、回り止め片 2 3 の端面及びキャップ 7 の開放端面の両方がテーパ面をなすとしても構わない。

40

さらに、回り止め片 2 3 及びこれを係止する係止部 2 7 , 2 9 は、例えば第 2 筒部 1 7 の周方向に 1 つだけ設けられとしても構わない。

また、注出栓 5 及びキャップ 7 の螺着方向及び螺脱方向は相互に逆向きに設定されとしても構わない。

また、注出栓 5 は、容器本体 3 の口部 3 a に螺着されとしたが、例えば、容器本体 3 の中心軸線 O 方向から容器本体 3 の口部 3 a に嵌め込んで取り付けられとしても構わない。

さらに、注出栓 5 及びキャップ 7 は、例えば容器本体 3 と同じ材質によって形成される

50

としてもよい。

【産業上の利用可能性】

【0031】

肩カバー部材及び容器本体を容易に分別廃棄可能としながら、肩カバー部材及び容器本体の位置ずれに基づく意匠性の低下を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0032】

【図1】本発明の実施形態である異種材組立容器において、開封前の状態を示す要部拡大断面図である。

【図2】図1の異種材組立容器において、バージンリングを取り外した状態を示す要部拡大断面図である。

10

【図3】図1の異種材組立容器において、キャップを完全に螺着させた状態を示す要部拡大断面図である。

【図4】図3のC - C矢視断面図である。

【図5】図1の異種材組立容器において、回り止め片を第2筒部の外周面側から見た状態を示す拡大正面図である。

【符号の説明】

【0033】

1 異種材組立容器

3 容器本体

20

3 a 口部

3 b 肩部

5 注出栓

5 a 注出口

7 キャップ

9 肩カバー部材

17 第2筒部（周壁部）

23 回り止め片

23 a テーパー面

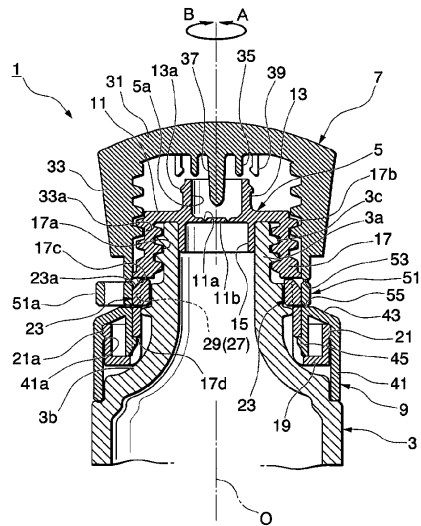
25 弾性ヒンジ部

30

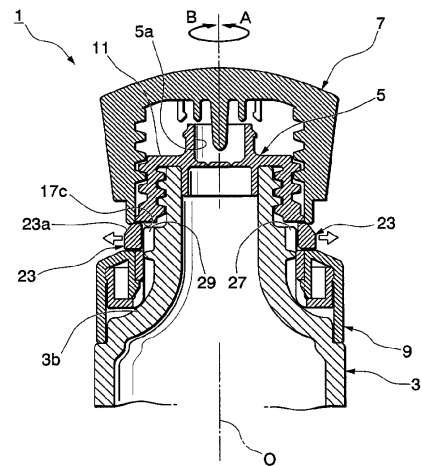
27, 29 係止部

O 中心軸線

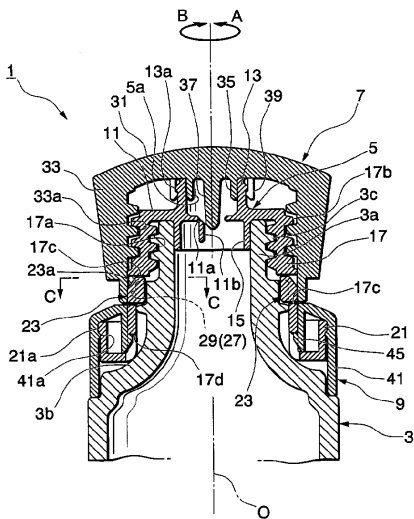
【図 1】



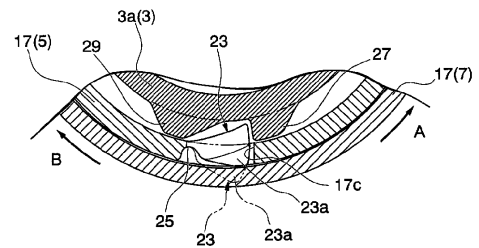
【図 2】



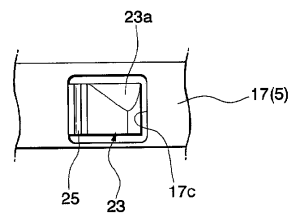
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

審査官 柳本 幸雄

(56)参考文献 特開 2 0 0 5 - 2 0 6 1 8 5 (J P , A)
特開平 0 9 - 1 4 2 5 0 7 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
B 6 5 D 3 5 / 4 4 - 3 5 / 5 4
B 6 5 D 3 9 / 0 0 - 5 5 / 1 6